

科 目 名 (Subject)	労働法研究（発展）（Labor Law）		
単 位 数 (Credits)	2 単位	開講時期	後 期
担当教員名 (Name)	國武 英生（Hideo Kunitake）	研究室番号 (Office)	512
Office Hours			
1. 授業目的・方法 (Course objective and method)			
<p>本授業は、労働法が直面している発展的な課題を1つ取り上げ、受講生とともに調査・研究することを目的とする。テーマは受講生と相談の上で選択し、関係法令、判例、実例、諸外国の法制度などを素材として、受講生の調査・プレゼンテーションをもとに質疑応答形式で進めていく。</p> <p>授業の際には、①事例を使って具体的なイメージをもとに議論する、②日本や諸外国の制度や実態を踏まえてより広く深い思考を促す、③受講生と対話を行い主体的に考える力を養う、といった点に重きを置きたい。</p>			
2. 授業内容 (Course contents)			
<p>今年度において具体的に想定しているのは、次の課題である。</p> <p>1 労働法の適用対象をめぐる理論的課題</p> <p>2 労働契約論の歴史的発展をめぐる理論的課題</p> <p>3 労働契約の意思理論をめぐる理論的課題</p>			
3. 使用教材 (Teaching materials)			
<p>テーマ選択時に指定する。</p>			
4. 成績評価の方法 (Grading)			
<p>下記の要素に基づき成績評価を行う。</p> <p>・授業への参加度（事例、討論、調査） 80%</p> <p>・ホームワーク（事前課題の提出） 20%</p>			
5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)			
<p>・労働法の諸問題に深い関心を持ち、与えられた課題に積極的に取り組むことができるか</p> <p>・与えられた課題について、口頭や文章でわかりやすくプレゼンテーションできるか</p> <p>・他者と協力して課題に取り組み、議論をしながら理解を深めることができるか</p> <p>・法的な問題点を抽出し、自らの思考・判断のプロセス・結論を文章で明確に示すことができるか</p> <p>上記基準について特に秀でている者を「秀」、上記基準を十分に満たす者を「優」、上記基準を一応満たす者を「良」、上記基準をぎりぎり満たす者を「可」、上記基準を満たさない者を「不可」とする。</p>			
6. 履修上の注意事項 (Remarks)			
<p>労働法の基本については学習済みであることが望ましい。</p>			